

数字配列

JJ1SXA 池

以前にも書きましたが、モールス符号は、アメリカ人のモールスが、新聞社の活字保有数から、良く使う文字を短い符号に割り当てたように、一般的には、パソコンのキー配列も良く使う文字が中心部に集められていると思っている人が多いようです、過去に英文タイプライターの学校でそのように習った人もいるようですが、あのよう脈絡の無いような QWERT 方式の配列は、機械式のタイプライター全盛時代に、タイピストが早く打ち過ぎてタイプライターを壊さないように考えて配列したとのことで、それが、パソコンのキー配列に引き継がれて現在に至り一般的になっています。

そんな打ち易さにこだわったわけでは無いキー配列でも、ベテランは高速のブラインドタッチキーイングをこなしています。

今回は、電卓型と電話型の数字配列についての事です、新聞に記事があったのを読みましたが、双方の違いは知っていましたが、何故なのかは全く疑問を持たないでいました、違いに気がつかないでいる人の方が圧倒的に多いらしいので、変に安心しました。(そんなことで安心してはいけないのですが・・・)

電卓型の数字配列は、下から上に、「1・2・3」、「4・5・6」、「7・8・9」と並んでいるのに対し、電話型では、これが、上から下へと逆になっています。

電卓として使う場合には、良く使う 0 や 1 が手前にある配置は人間工学的に正しそうだが、縦横に並んだものを見る時、人間の視線は自然と左から右、上から下へと Z を描くように動くので数字の探しやすい電話式も合理的で、どちらが良いとは決められないようです。

素人的には、どちらでも良いから統一すれば良いのにと考えますが、そうもいかない事情があるようです、ちなみに、電卓は、国際標準化機構で、電話は国際電気通信連合の電気通信標準化部門で、それぞれ配置が決められているようで、統一は簡単にはいかない仕組みです。

統一しなくても、パソコンのキーイング同様、携帯電話に馴れている若いお姉さんたちも、スーパーのレジでは、電卓配列のキーイングは目にも止まらぬ早さです、とは言っても最近では、バーコードの読み取りで済むので、そんな職人技は必要無くなり、かなりお年を召したお姉さん方でもレジは勤まるようですが・・・普段余り気にしていないことや、自分では常識と思っていることがそうで無かったりの方が多すぎます。

災害時につながり易いのは、携帯電話メール、公衆電話、携帯電話の順ということが NTT から発表されています、携帯メールの親指打ちをもっと練習しなければいけませんし、パソコンのキーイングも、高速とまではいかなくても、せめてブラインドタッチでできるようにと思いますが、現実にはブラインドタッチができなく、且つ低速のキーイング、何とか両手の指使いができるようになったのが慰めか？ 困ったものです。